

随筆文の読み方を知ろう

問題 P01

図解 | 随筆文の読み方

【図解】随筆文では、体験・出来事と、そこから生まれた感想・気持ち、気づき、筆者の考えのつながりに注目して読む。体験・出来事は実際に起きたこと、感想・気持ちはそのときに感じたこと、気づきは体験から新しく分かったこと、筆者の考えは文章全体を通して伝えたいことを表す。

1

体験・出来事

何があった？

2

感想・気持ち

どう感じた？

3

気づき

何に気づいた？

4

筆者の考え

何を伝えたい？

読み方のポイント：随筆文では、起きた出来事だけでなく、その体験を通して筆者の気持ちやものの見方がどう変わったかに注目しましょう。

①体験と感想

問1 図解を参考に答えなさい。

次の文は「体験・出来事」「感想・気持ち」のどちらですか。「昼休みに校庭へ出ると、桜の花びらが地面いっぱいに散っていた。」

問2 最も適切なものを選びなさい。

「帰り道で突然雨が降り出した。かさを持っていなかった私は、ついていないと思いながら走った。」この中で筆者の感想・気持ちを表している部分はどれですか。

- ア 帰り道で
イ 突然雨が降り出した
ウ かさを持っていなかった
エ ついていないと思った

答え _____

②気づきと考え

問3 最も適切なものを選びなさい。

「私は毎朝、花壇の横を急いで通り過ぎていた。ある日、立ち止まって見ると、小さなつぼみがいくつも開きかけていた。毎日見ている場所にも、気づいていない変化があるのだと思った。」筆者の気づきに当たるものはどれですか。

- ア 毎朝花壇の横を通っていたこと
イ つぼみが開きかけていたこと
ウ 身近な場所にも気づいていない変化があること
エ 花壇の横で立ち止まったこと

答え _____

③読み方確認

問4 出来事の流れに沿って並べなさい。

次の四つを「体験・出来事→感想・気持ち→気づき→筆者の考え」の順に並べなさい。

- ア 自分から声をかけることで相手との距離が縮まることもあると思った。
イ 転校してきた生徒に休み時間に声をかけた。
ウ 話してみると好きな本が同じだと分かった。
エ 声をかけたあと、返事を待つ間は少し緊張した。